



Data

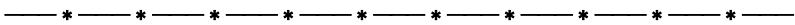
監督・製作：リドリー・スコット
脚本：コーマック・マッカーシー
出演：マイケル・ファスベンダー/
ペネロペ・クルス/キャメロン・ディアス/ハビエル・バルデム/ブラッド・ピット

👁️👁️ みどころ

「豪華五大スター」の共演が本作の売りだが、あなたは5人とも知ってる？ 原題になっているカウンセラーが主人公だが、若く有能な弁護士がこんな裏のビジネスに手を染めていいの？ 楽をして金を稼ぎ、ダイヤモンドをプレゼントして、いい女を手に入れる。それも悪くはないが、その代償は？

邦題となっている「悪の法則」とは一体どんなもの？ 私はそれを知りたくて鑑賞したが、さてあなたは本作からそれをどう読み解く？

スタイリッシュな映像美とスリリングな展開には満足だが、何かもの足りない感じも・・・。



■□■「豪華五大スター」だが、一人だけ小粒・・・？■□■

本作はハリウッドを代表する二大スター、ブラッド・ピットとキャメロン・ディアス、そしてスペインを代表する二大スター、ハビエル・バルデムとペネロペ・クルスの名前が目立つ。しかし、本作の売りは「五大スターの共演」で、もう一人はドイツ生まれの俳優マイケル・ファスベンダーが若く有能な弁護士兼カウンセラー役として登場する。マイケル・ファスベンダーが本作のストーリーの軸となるその主人公（なぜか、この弁護士の名前は明らかにされない）を演じているが、多分「豪華五大スター」の中でこの一人だけは小粒・・・？

『シェイム』（11年）で主役を演じたマイケル・ファスベンダーについて、私は、『『300 スリー・ハンドレッド』（07年）（『シネマルーム15』51頁参照）でデビューし、『イングリシアス・バスターズ』（09年）（『シネマルーム23』17頁参照）等に出演しているそうだが、私には全く馴染みがない。しかし、本作には『17歳の肖像』（08年）

『シネマルーム24』20頁参照)や『わたしを離さないで』(10年)、『シネマルーム26』98頁参照)で私が注目しているイギリス人女優キャリー・マリガンが妹のシー役で起用されているから、私はそれに注目！」と書いた(『シネマルーム28』186頁参照)。また、その後、『危険なメソッド』(11年)で、ヴィゴ・モーテンセン演ずるフロイトの弟子であるユング役を演じたマイケル・ファスベンダーについても、「口をゆがめ顔を引きつらせる美女キーラ・ナイトレイの熱演に比べると、静かな演技に終わっている」と書いた(『シネマルーム29』121頁参照)。さらにマイケル・ファスベンダーは、リドリー・スコット監督の前作『プロメテウス』(12年)、『シネマルーム29』230頁参照)でも主役で登場していたから、今やハリウッドでの超売れっ子になっている。

しかしそうであっても、やはり、ブラッド・ピット、キャメロン・ディアス、ハビエル・バルデム、ペネロペ・クルスという4人のビッグネームに比べれば、マイケル・ファスベンダーだけはやはり小粒・・・？

■□■新婚早々、こんなシーンに出演していいの？■□■

スペインの名花、ペネロペ・クルスは、2010年7月、『ノーカントリー』(07年)、『シネマルーム18』21頁参照)での怪演が今なお印象に残る同じスペイン生まれの俳優ハビエル・バルデムと結婚したようだ。ところが本作冒頭、昔の夕刊紙やスポーツ紙に連載されていた、宇能鴻一郎の官能小説(ポルノ小説)まがいの会話と行為を楽しむシーンが堂々と登場するから、その姿にビックリ。午後2時だというのに白いシーツの中に素っ裸でじゃれ合う、弁護士のカウンセラー(マイケル・ファスベンダー)とその婚約者ローラ(ペネロペ・クルス)は最高に楽しそうだが、実生活では新婚の夫ハビエル・バルデムがいるペネロペ・クルスが、こんなシーンに挑戦して大丈夫なの？配役上の設定とはいえ、リドリー・スコット監督は酷なことを要求するものだ。

他方、カウンセラーの友人で派手好きな実業家ライナー(ハビエル・バルデム)は、目下ちょっと謎めいた金髪の美女マルキナ(キャメロン・ディアス)と同棲中らしい。ライナーは車の中に2匹のチーターを同乗させて草原に赴き、チーターがいたぶるように獲物を追いかける姿を、マルキナと共に双眼鏡で楽しんでいたが、そんな趣味からして2人ともちょっと異常・・・？

もっとも、この時点では「豪華五大スター」のうち、「悪の法則」が貫徹する中、誰が勝者になり、誰が敗者になるかは全くわからなかったが・・・。

■□■弁護士がこんなことに手を出していいの？■□■

日本ではまだまだ弁護士は、「法の守り手」として尊敬されているが、他方で、凶悪犯を弁護する悪い奴とか、金儲けに走る悪徳弁護士というイメージも「定着」している。しかして、自由主義、個人主義かつ何でもありの国、アメリカの弁護士は・・・？

本作の主人公であるカウンセラー弁護士がライナーとの間で進めようとしている、麻薬絡みのビジネスがヤバイことは当然。それに絡む闇社会のブローカーであるウェストリー(ブラッド・ピット)のカウンセラー弁護士に対する忠告(警告)を聞いていても、弁護



『悪の法則』
DVD発売中

(C) 2014 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.
20世紀フォックス ホームエンターテイメント ジャパン

士たる者はその一步手前で押しとどまるべきだ。しかし、美人の婚約者ローラに2000万ドルの指輪をプレゼントするためには、カウンセラーは多少ヤバイことだって……。本作で展開される麻薬ビジネスの舞台はテキサスだが、ウェストリーが語る、取引相手となるメキシコ人組織の残虐さは、生半可ではなさそうだ。

日本でも、刑事当番弁護士という制度があるが、会社法務関連の大きな事件をやっている日本の弁護士は普通、当番弁護士はやっていない。しかし、カウンセラーは一方で、多額の金を稼ぐために麻薬ビジネスに手を出しながら、他方で、日本の当番弁護士のような事件もやっているようだから、アレレ……。それはともかく、カウンセラー弁護士が面会に行った受刑中の女性から受けた依頼は、スピード違反で逮捕された息子を保釈してほしいというものだから、そんな仕事はチョロイもの。しかし、その後スクリーン上で見る、心の底からゾッとする展開は……？

■□■メキシコ人の闇組織の追及の恐さは……？■□■

映画冒頭にも、このバカ息子のバイクでの暴走ぶりはものすごい。それでも、カウンセラーは母親の依頼どおり保釈金を払って彼の保釈を実現させたが、さて、ヘルメットの中にヤバイ荷物を隠して再びバイクを暴走させるこのバカ息子には、どんな運命が……？ 同じ日に観た、ロバート・デ・ニーロ主演の『マラヴィータ』(13年)は、報復に燃えるマフィアの男たちの姿が見えたから、その恐さをハッキリ認識できたが、本作では、巨大なトラックの中に数百トンの麻薬を隠して運搬しているメキシコ人たちの裏組織の実態を見せてくれず、その残忍な報復行為のみを見せてくれるから、その組織の恐さは自分で想

像するしかない。したがって、重要な荷物の運び屋をやっていたらしいあのバカ息子の首が、組織の手によって残忍に飛んでしまうと、その息子の保釈手続をしてやったカウンセラー弁護士にもその危険が及んでくるのも当然だ。

カウンセラーは今更ながら、ウェストリーが「奴らは人間とは別の種族だ。俺は金を持って、一瞬で消えるよ」と言っていたことを思い出したが、ウェストリーの話によれば、とくに、「話せばわかる」時期は過ぎてしまったらしい。ウェストリーは自分で言ったとおり逃走という行動に出たが、さてウェストリーに対するメキシコ人の裏組織の追及は・・・？また、ウェストリーの言葉が身にしみたカウンセラーも、もはやローラのもとに帰れないことを悟り、彼女とともにるか遠くの国への逃亡を企てたが、さてローラに対するメキシコ人の組織の追及は・・・？

■■■キャメロンはこんな役がピッタリ。バビエルは？■■■

『チャールズ・エンジェル』（00年）や、『チャールズ・エンジェル フルスロットル』（03年）でのキャメロン・ディアスも素敵だったが、私が一好きなのは、『私の中のあなた』（09年）でのシリアスな熱演（『シネマルーム23』42頁参照）と『ギャング・オブ・ニューヨーク』（02年）でのカッコいい女スリ役（『シネマルーム2』49頁参照）。美人でカッコよくて芸達者な彼女はどんな役にでも対応できるハリウッドでも数少ない女優だが、『ギャング・オブ・ニューヨーク』でのカッコいい女スリ役と同じように、本作に見る謎めいた、ゴージャスな悪女マルキナ役は彼女にピッタリだ。プールサイドで、



『悪の法則』
DVD発売中

©2014 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.
20世紀フォックス ホームエンターテイメント ジャパン

共にほぼ裸状態で並ぶと、清純なペネロペ・クルスとの対比ぶりが面白い。百戦錬磨の悪女と若くかっこいい弁護士に首っつけの恋する女との違いは、肉体面だけではなく、ダイヤの指輪の鑑識眼でもハッキリしているわけだ。キャメロン・ディアス演じるマルキナは既にこの時点で、ペネロペ・クルス演じるローラの指にはめてある2000万ドルのダイヤの指輪に目をつけたことは明らかだ。

キャメロン・ディアスが本作中盤では、本作冒頭にペネロペ・クルスがみせた、宇能鴻一郎のポルノ小説以上に超エッチな巨大アメ車とのセックスシーンに挑戦するから、それに注目！その状況を生々しく語るのは、その目撃者であるライナーだが、開脚度180度を誇るキャメロン・ディアスの豊満で柔軟な肉体は、キャデラックのフロントガラスの前でいかなるセックスを・・・？

『ノーカントリー』（07年）で、オカッパ頭の残忍な殺し屋を演じて、アカデミー賞助演男優賞を受賞したハビエル・バルデム演じるライナーは、そんな様子を嘔然として眺めていたらしいが、ライナーと組んでいたウェストリーに闇の組織の危険が迫ってきた今、ライナーもかなりヤバそうだ。ウェストリーが直ちに逃走を図ったのと同じようにライナーも2匹のチーターを積んだ車で、一人トズラを決め込んだが、さて、その成否は・・・？

■□■カウンセラー弁護士の変貌ぶりに注目！■□■

ハリウッド映画では、『マシニスト』（04年）でクリスチャン・ベイルが1年間、365日眠っていない主人公を演じるため、体重を30kgもダイエットした姿が今でも印象に残っている（『シネマルーム7』382頁参照）。また、『モンスター』（03年）では、ハリウッドビューティーを代表する女優シャーリーズ・セロンが13kg以上も体重を増やし、ひどいメイクを施して売春婦から「モンスター」と呼ばれる連続殺人犯にまで変身する姿がものすごかった（『シネマルーム6』238頁参照）。さらに邦画では、高岡早紀が演じた美女と整形前の顔との極端な対比が面白かった（『シネマルーム30』未掲載分）。このように、映画ではさまざまな人物の落差の大きさが注目されるが、本作では映画冒頭カッコいい若手弁護士だったカウンセラーが、後半からクライマックスにかけて、メキシコ人たちの闇の組織の追及の前に恐怖におののき、怯えきった、憔悴しきった姿に変貌していく姿に注目したい。

人を殺すスタイルにいろいろな「美学」があることは、日本の人気TVドラマ『必殺』シリーズを見ればよくわかるが、本作でメキシコ人たちの闇組織がみせる、ワイヤーを使った殺人の美学も秀逸だ。ちょうど首の高さで、道路に張られたワイヤーに向かって、時速200kmを超えるスピードでバイクが突っ走っていったら、ヘルメットをかぶった人間の首はどうなる・・・？また、刻一刻と締め付けていく犬の首輪のようなワイヤーで首を挟まれたら、いくらカッコいい役が多いブラッド・ピット扮するウェストリーの首だって・・・。本作では、思わずズツとしながらも、映画なればこそ、そんな「殺しの美学」をタップリと堪能したい！

■□■原題は？邦題の意味をどう読み解けば・・・？■□■

本作の原題は『THE COUNSELOR』。これは、本作の主人公である若く有能な弁護士がカウンセラーと呼ばれていることに注目したものだ。私が初めてDVDの解説を書いた『リンカーン弁護士』（11年）でも、当初はリンカーンが弁護士の名前だと思っていたが、実はそうではなく大型車のリンカーン・コンチネンタルを事務所代わりに使っている、一見チョイ悪弁護士の通称だった（『シネマルーム29』178頁参照）。もっとも『リンカーン弁護士』では弁護士の本名が明らかにされていたが、本作の主人公となるこの弁護士はなぜかカウンセラーと呼ばれているだけで、本名は明かされない。私のように40年間も真面目に弁護士稼業をやっていると、リンカーン弁護士にもちょっとハラが立ったが、本作にみるカウンセラーにはかなりムカツクところが多い。もっともリンカーン弁護士はストーリー展開の中で、実はかなりいい奴だったことが判明するが、本作の弁護士はいい女や立派な家、そして高価なダイヤモンドを手に入れるべく、ちょっとした出来心で裏社会のビジネスに手を出したことによってとことん転落し、恐怖の極地を味わうことになるから、やはりこいつはバカ！私はそう思わざるをえない。

ある意味で「味もそっけもない」そんな原題に対して、邦題は『悪の法則』。これはかなり意味あり気で、本作を観れば「〇〇の法則」や「△△の法則」と同じように、「悪の法則」を会得することができそう。私はそう期待したが、実は本作には裏のビジネスを操るメキシコ人の組織の顔が全く見えないから、そんな邦題にもかかわらず本作から「悪の法則」を見つけ出すことは到底ムリ。むしろ、悪には何らかの法則性よりも個人のキャラクターの方がウエイトが大きいのではないかと思えてくる。

本作には、冒頭で書いたように5人のビッグネームが登場するが、主人公の弁護士を筆頭として、意外にもブラッド・ピットやハビエル・バルデム、ペネロペ・クルスも悪事に手を染めながらも無残な敗者になっていく役割を演じている。すると、残る1人はキャメロン・ディアスだけだが、彼女は一体どんな役割を？ライナーと同棲中の元ダンサーとして登場してきた時からマルキナはド派手で悪女風の雰囲気ではいっばいだったが、それが明確にされるのはプールサイドにおけるローラとの語らいの時。その後、ウェストリーとライナー、ローラとカウンセラーが次々と裏の組織から追い詰められていく中、さてマルキナは・・・？こんな複雑な展開の中であなたが邦題どおり「悪の法則」を見つけ出すことができれば大成功だが、それはちょっと無理なのでは・・・。

スタイリッシュな映像美とスリリングな展開には十分満足だが、その点が消化不良のため何か物足りないものが残ったが、それは私だけ・・・？



『悪の法則』 DVD発売中
©2014 Twentieth Century Fox Home Entertainment, LLC. All Rights Reserved.
20世紀フォックス ホームエンターテイメント ジャパン